

自民党の武藤貴也衆院議員(36)がインターネットの短文投稿サイトツイッターで、戦争法案に反対する「SEALDs」(シールズ)自由と民主主義のための学生緊急行動)について、「自分中心、極端な利己的考え」と非難していることに批判の声が高まっています。

武藤氏は7月30日付で「彼ら彼女らの主張は『だって戦争に行きたくないじゃん』という自分中心、極端な利己的考えに基づく。利

「戦争行きたくない」を「利己的」と非難

自民・武藤議員に批判の声

己的個人主義がこままり、正義の要請だ」とで蔓延(まんえん)した開き直っています。

のは戦後教育のせいだ 武藤氏は、「マスクろうと思うが、非常にミを懲らしめる」など残念だ」と投稿。「戦争言論弾圧暴言を発したしたくないなら中国大使館前や朝鮮総連前で反戦の訴えをすべきだ」と主張しました。

「民主主義を否定している」など批判の高まりに対し同氏は2日付のフェイスブックで「世界中が助け合って平和を構築しようとする力している中に参加することは、もはや日本に課せられた義務であ

り、正義の要請だ」と開き直っています。

武藤氏は、「マスクミを懲らしめる」など言論弾圧暴言を発した自民党若手議員の勉強会(文化芸術懇話会)のメンバー。2012年7月23日付ブログで、日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の原則について、「この三つとも日本精神を破壊するものであり、大きな問題をはらんだ思想だ」と述べ、日本国憲法を敵視しています。